

重点取組分野	令和 4 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
授業改善	①学習の総合化を図る。各学年・各学級等年間指導計画を立てる。学期ごとに実現状況を把握する。②総合的な学習の時間と生活科を中心に、課題解決に向け、自ら考える・共に考える活動を意図的・計画的に位置付けた授業をつくる。③「自分づくりの力」を育てる、二期制のよさを生かした教育課程を編成する。	①②総合的な学習の時間・生活科の重点研究が3年めとなり、課題解決的な授業づくりが進んだ。それに伴って、学習の総合化の必要性が増し、各学年・学級の年間指導計画の見直しをこまめにを行った。③2学期制への移行に伴い、一つ一つの教育活動のねらいや内容を再検討することとなり、「自分づくりの力」の育成を目指す教育課程編成へとつながった。	A
人権教育 道徳教育	①各学級の人権目標を設定し、日々の継続的な取組を充実する。②道徳科の学習を核として、道徳教育の充実を図る。③児童会を中心とした、児童の主体的な挨拶運動を工夫し、挨拶の日常化を図る。④ペア学年やブロックでの活動を行い、異年齢児童の交流を推進する。	①「自分らしさ」をキーワードにした人権週間の取組を継続することで、人権意識の高揚につながった。日々の振り返りを大切に、学んだことを実生活につなげたい。②豊かな心の教育推進校となり、道徳科の学習について授業研究会や授業公開を通して学んだ。③④感染症対策を講じつつ、児童会主体の挨拶運動や、継続したペア学年交流を行った。来年度は、縦割り活動を復活したい。	B
健康教育	①学校保健委員会のテーマに迫るために、児童の委員会活動を中心とした集会を学期に1回実施し、各学級での日々の継続的な取組を推進する。②養護教諭との連携を図り、全学年にわたる系統的な性に関する指導を充実する。③食を視点にした授業実践を通じ、食育全体計画・年間指導計画を見直す。	①学校保健委員会テーマ「西寺尾パワーアップ大作戦」のもと、編み物運動に取り組んだ。体育科学習や集会、長期休業等で、児童一人ひとりが自当てるを立てて取り組むことを推進した。年度当初や年度途中にテーマ・取組内容を家庭に伝え、連携して進めたい。②引き継ぎ、発達段階に応じた指導や教材開発を進めた。④様々な教科等での食育の可能性に気付いた。実践を更に広げたい。	B
地域学校 協働活動	①地域の材(もの・こと・人)を活用し、自分と地域とのかかわり考える授業をつくる。②「ピカピカ大作戦」「地域ふれあい清掃」等、家庭・地域との連携を図る行事を実施する。③「ブロックで育てたい子ども」の育成に向け、錦台中ブロック学校運営協議会を運営する。	①総合や生活科等、自分と地域とのかかわり考える授業づくりに努め、児童の社会参画意識が向上し、「まちを愛する態度」を育むことにつながった。②感染症対策を講じて実施したことで、地域の方々の思いに触れられた。③ブロック学校運営協議会を2回、協議会を受けた西寺尾小委員会を2回、実施した。初年度の実施状況を踏まえ、来年度の協議内容や開催方法を検討したい。	B
特別支援教育	①個別支援学級・国際教室・スマイル学習で学ぶ児童の支援計画・指導計画について担当と担任が共有するとともに、保護者と子どもの育ちを確認しながら、指導の充実を図る。②特別支援コーディネーターを窓口、関係機関やSC、SSWと連携し、情報交換や相談、研修などの児童理解の機会を充実する。	①担当する複数の教員で個別の指導計画・支援計画を共有して指導に生かすという仕組みづくりを、特別支援校内委員会を中心に更に充実していきたい。②SCやSSWとの情報共有、SSWと関係職員や保護者などとのケース会議や東部療育センターと連携した研修会等を実施し、児童理解が進んだ。今後も様々な立場からの情報を共有し、児童理解の一層の充実につなげたい。	B
いじめへの対応	①いじめ防止対策委員会及び児童へのアンケートを実施し、定期的に実態を把握する②教科分担任、TT、交換授業などの指導体制を工夫し、日常的に実態を把握する。③「西寺尾スタンダード」を含めた学校のきまりを掲げ所に、誰もが安心して学校生活を送るための生活指導を行う。	①定期的な実態把握(YP)やいじめの積極的な認知を行い、早期発見・早期対応に努めた。②高学年の教科分担任に加えて、低学年・中学年での授業交換を行い、児童理解の充実を図った。③児童がきまりの意味を捉えて生活できるよう、職員全体での理解を大切にしたい。「いじめ防止フォーラム」でブロックの取組を発信したことで、挨拶をはじめとした児童主体の活動の大切さを再確認した。	B
人材育成・ 組織運営 (働き方)	①学校全体の活動の担当にCS(キャリアステージ)1・2の教員を据え、CS3の教員や主幹教諭が協働する体制をつくる。②メンター研・初任研は、授業実践を主な内容とし、主体的・日常的な研修となるよう工夫する。③学年研・ブロック研での協議・相談等を充実する。	①活動終了後に成果と課題や次年度の方角性を議論するまでを、CS3の教員と主幹教諭が支えた。PDCAサイクルを大切にしたい。取組を協働的に行う中で、人材育成を図ってきたい。②CS3の教員や主幹教諭がオブザーバーとなり、授業や実技を中心とした研修を進めた。③学年研・ブロック研で、各委員会が協議したことが共有されるよう、メンバーの明確化、資料の提供方法を工夫したい。	B
ブロック内 評価後の 気付き	ブロックでの授業研究会(小学校1回・中学校1回)や研修会(特別支援教育)、地区懇談会(地域環境)を実施し、9年間のスパンで子どもの成長をみる大切さを再確認した。また、ブロック学校運営協議会を立ち上げ、あらためて、地域と学校とのつながりの強さを、学校経営・ブロック経営に生かすことの大切さも再確認した。ブロック内3校が連携して高め合うことができるよう、9年間で育てる子ども像「互いに認め合い 自ら行動する子ども」の具体的な姿を明確にし、地域や家庭に発信し、子ども像実現のために担う、学校・家庭・地域の役割を議論したい。		
学校関係者 評価	・「ピカピカ大作戦」で、上級生が下級生に優しく指導し、下級生も素直に聞き、協力して清掃する姿が微笑ましかった。 ・全国学力・学習状況調査での算数の結果がよくないのが気になる。それについての授業改善が明記されているが、これで改善できるのだろうかと思う。もう少し具体的な改善策がほしい。 ・学校教育目標に沿って、児童の個性を伸ばす教育を行っていると感じている。特に、校外での学習における児童の積極的な行動は、目を見張る。将来において、ものの見方や洞察力を広げて、常識のある人間になることにつながるのではないかと。 ・制限のある中で、学校から地域との関わりやふれ合いを深めようというプログラムを考えられている。子どもたちも、地域を知り、大事に思っていることが伝わってくる。とても素晴らしいと思う。地域行事が、早く平常になることを祈っている。		
中期取組 目標 振り返り	中期取組目標「自分づくりの力」を育成する教育課程を改善し、家庭・地域との連携を図り、「自らつくる」子どもを全職員で育みます。Jの実現を目指した初めての1年間、目標実現のために、学校行事や学習評価等のねらい・時期・内容・方法を見直し、2学期制を生かした教育課程改善を進めた。この営みは教育課程編成・改善・実行そのものであり、教職員の人材育成と組織力向上につながった。来年度は、2学期制を実際に進めながら、コロナ禍で実施してきた教育活動とコロナ禍前の教育活動を比較・検討し、より質の高い、本校ならではの教育課程への改善を目指したい。今後も、目標を見据え、家庭・地域と連携し、子どもの育成を図りたい。		

重点取組分野	令和 5 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
授業改善	①学習の総合化を図る。各学年・各学級等年間指導計画を立てる。学期ごとに実現状況を把握する。②総合的な学習の時間と生活科を中心に、課題解決に向け、自ら考える・共に考える活動を意図的・計画的に位置付けた授業をつくる。③「自分づくりの力」を育てる、二期制のよさを生かした教育課程を実行する。		
人権教育 道徳教育	①各学級の人権目標を設定し、日々の継続的な取組を充実する。②道徳科の学習を核として、道徳教育の充実を図る。③児童会を中心とした、児童の主体的な挨拶運動を工夫し、挨拶の日常化を図る。④ペア学年やブロック、縦割りでの活動を行い、異年齢児童の交流を推進する。		
健康教育	①学校保健委員会のテーマに迫るために、各学級での日々の継続的な取組を推進する。②養護教諭との連携を図り、全学年にわたる系統的な性に関する指導を充実する。③食を視点にした授業実践を通じ、食育全体計画・年間指導計画を見直す。		
地域学校 協働活動	①地域の材(もの・こと・人)を活用し、自分と地域とのかかわり考える授業をつくる。②「ピカピカ大作戦」「地域ふれあい清掃」等、家庭・地域との連携を図る行事を実施する。③「ブロックで育てたい子ども」の育成に向け、錦台中ブロック学校運営協議会を運営する。		
特別支援教育	①個別支援学級・国際教室・スマイル学習で学ぶ児童の支援計画・指導計画について担当と担任が共有するとともに、保護者と子どもの育ちを確認しながら、指導の充実を図る。②特別支援コーディネーターを窓口、関係機関やSC、SSWと連携し、情報交換や相談、研修などの児童理解の機会を充実する。		
いじめへの対応	①いじめ防止対策委員会及び児童へのアンケートを実施し、定期的に実態を把握する②教科分担任、TT、交換授業などの指導体制を工夫し、日常的に実態を把握する。③「西寺尾スタンダード」を含めた学校のきまりを掲げ所に、誰もが安心して学校生活を送るための生活指導を行う。		
人材育成・ 組織運営 (働き方)	①学校全体の活動の担当にCS(キャリアステージ)1・2の教員を据え、CS3の教員や主幹教諭が協働する体制をつくる。②メンター研・初任研は、授業実践を主な内容とし、主体的・日常的な研修となるよう工夫する。③学年研・ブロック研での協議・相談等を充実する。		
ブロック内 評価後の 気付き			
学校関係者 評価			
中期取組 目標 振り返り			

重点取組分野	令和 6 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
授業改善	c1		
人権教育 道徳教育	c2		
健康教育	c3		
地域学校 協働活動	c4		
特別支援教育	c5		
いじめへの対応	c6		
人材育成・ 組織運営 (働き方)	c7		
	c8		
	c9		
	c10		
ブロック内 評価後の 気付き			
学校関係者 評価			
中期取組 目標 振り返り			